
私と兄とその他色々

伊理絵 卓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私と兄とその他色々

【Nコード】

N1774V

【作者名】

伊理絵 卓

【あらすじ】

私と兄と友人と家族は、とある県に住んでいます。
とある町で、それなりに愉快(?)に暮らしています。
その愉快つぷりを友人に買われ、小説でノンフィクションとしてあげたらどうかと言われ、ここに投稿する事となりました。
愉快的な生活。皆様方に笑いを提供できるか、と訊かれたら、些か自信の程はありませんが、クスリとでも笑って頂ければ、それはそれでちよつとした幸福なのです。

何なんでしょうがこの偽善にまみれた言葉は。
ポエマー？（爆）

お断り。……いや、何か違うな……… 注意書き？

この作品（？）は、私や兄、はたまた私の家族や、友人やらがたまに起こす、よく分からない馬鹿らしい出来事や、何がしたかったのか当の本人も分からない事を、多少のアクセントをつけて、私が文に仕上げた物です。

私や、私とその周りの人々が、もし仮に『アイツ、あの作品の○○○じゃねえ？』とかそういう風に見付けてしまったのならば、その本人に教える事無くそつと見守って上げてやって下さい。

……… 何この上目線。自分で書いてて、なんだか腹立ってきた。殴りたくなって来た。

まあ、そんな他愛無い話。どうでもいい話。当事者しか笑えないような話。

更新は遅いかも知れませんが、気に入って頂ければそれは光栄。そついう物をここで、あげさせていただきます。

んゝ、むかつく語り部。

では、面白くなければ別に見なければ良いのですし、御気楽な気持ちで、どうぞお読みになり、そしてクスリとでも笑っていただければ、それでこのノンフィクションのような物語には充分なのです。

何この偽善。

何はともあれ、

『私と兄と友人と』、どうぞゆっくり。

滑り坂とトレーニングはご注意を（前書き）

一発目は、友人に話した時に『これはネタになるWWW』と爆笑した話を。

滑り坂とトレーニングはご注意を

私の家の前の道路は微妙に下り坂になっていて、そして今日はたまに路面が雨でぬかるんでいた。

学校からようやく解放され、

『あゝ、やっと家に着いた……』

などと思いつつ、その道に入り坂を登っていると、丁度我が兄が家から出てきてバイトに行く所だった。

天気予報では夕方から晴れる。との話だったからか、兄は自転車を出していた。

『入れ違いか。まあ逢わない日もあるし、良かった良かった』

と何が良かったのかは自分でも解らないが、そう考えつつ家に向かった。

兄も家の玄関の鍵を閉め、自転車に跨がろうとした時に私の姿を見付けたようだ。

結局一回も使わなかった右手の傘を挙げ、行つてらっしゃい。と言うおうかと思つたら、兄はいきなり自転車を押して私に向かって走り出した。

具体的には私に自転車を正面衝突させる程のスピードで。

ここまでなら、まあいつも通りの兄貴で、

私は自転車を止めて文句を言い、兄はそれをのりくらりとかわして自転車に乗り、バイトへと逃げていくパターンだったと言える。

だが。

今日はたまたま、路面が雨で滑っていた。

兄は自転車を私の眼と鼻の先で止めるつもりが、足が滑り自転車に押し潰される形で、私の眼と鼻の先で転ぶ結果になってしまった。

町のと真ん中で、人目の無い家の中でもない、という事も忘れ、私は叫んだ。

「なにやってんの!!?」

「…フッフハハハハッ!!滑った」

「ほんと、何がやりたいのよ!？」

「いやさあ、筋トレやったらやりすぎで痛くてさ、止まれなくなっ
て」

「ええ? やったら普通は筋力ついて止まれるでしょ!？」

「筋肉痛というものがね」

「ああ……いや、じゃあ、何で走るのよ？」

「いや、これはやるべきだろ？」

「何でよ!？」

ここで、漸く立ち上がり、自転車を立たせた兄。

いままで寝ながら喋って普通に会話を交わしていたが、ここはちゃんとした『道路』である。

「ふゝ、ああ恥ずい」

「全くだよ」

「カバンもって」

「ん」

「いやあ、汚れちゃった」

「あれだけ綺麗に背中から滑ったらそうなるだろうね」

「払ってくれ」

そういうのは自分でやれよ。

でもまあ、私はそれを言わずに払う。仲の良い兄弟である。

「んじゃ改めて行っでらっしゃい」

「おう」

「…気を付けなよ」

「ハハハ、全くだな！」

ほんと、あの兄貴は何処を目指しているのだろうか………？

前話の続き

夜になって、バイトから兄が帰ってきた。
いきなり私の部屋に入ってきて、開口一番。

「なんかさあ。背中が痛いんだけど」

あれで擦り傷をこしらえたとも言うのか。

「んな馬鹿な」

「いやあ、ちよつと見てくれない？」

傷も付いておらず、赤くさえなっていない。
いつも通りの背中である。

「……………ん、何もないと思うけど」

「ああ、そう？」

…なんで不満げな声を出すんだ。

「筋トレしたから止まらないんじゃない、筋肉痛だから止まらないんだ」

「そ、そう……………」

いや、心底どうでもいい。

「お前も筋トレした後は気を付けろよ？」

「いやあ…そんな教訓はいらないかと……………」

日頃から筋トレ紛いの事はするけど、そこまで鍛えようとも……
思ってもいたりするけど。

「お、お前……兄貴が下の奴らに教訓を言えなくなっちゃ……おしまいだぜ？」

「あ、そうなんですか………」

……いや、私末っ子だし……。

流石にここまで来たら、親も産めないような年齢だし。

「ま、なんともないなら良いか」

「筋肉じゃないの？……そんな簡単に筋肉傷めるとも思えないけど……」
「だよな……ま、いつか」

………良いのね。

なら来る必要は無かったのでは……？

どうでもいい事

とある休日。

確か雨が降っていたかな？まあそれぐらいしか覚えてないぐらいどうでもいい日。

朝食を食べ終わり、居間で特に面白くも無い番組を見ていた時に、漸く兄が降りてきた。

…ものの見事に、素晴らしい寝癖がついていた。

「…お兄ちゃん。髪の毛爆発しているよ」

「…これはね、めんどくさいから『させている』んだよ」
「……………」

暫くして、バイトに出かけて行った。無論、寝癖は跡形も無く消し
てから。

……………しかし何なんだあの人……………いや、カリスマ？

…例えるなら……………『カリスマ（偽）』？

どうでもいい事（後書き）

あんな『う』な吸血鬼って訳でもないけどね。

扇子

受験生である私は、まあ…執筆等をしているが、勉強しなければいけない。

私はよく集中する為によく曲を聴きながらやる。

中学の時の受験の時は、ラジオを両耳で聴きながら右手はノートの上を走り左手はペンを無駄に回し両足は曲に合わせて無駄にリズムをとったりと。

何がしたいのか自分でも分からなかったが、まあ、作業が進めばいいのだ。

閑話休題。

そんな訳でその日も、最近買った使えるか使えないかで言ったら『使えない』音楽プレイヤーを聴きながら、私は勉強をしていたのだ。そして、

「痛ッ!?!」

いつの間にか私の部屋に入ってきた兄が、兄が、私の扇子で、私を叩いた。

「なに!?!」

「思ったよりもハリセンじゃなかった」

「当たり前でしょ！？ていうかそれ私の！！」

「思ったよりもハリセンじゃなかった」

「だから何！？ていうかそれ修学旅行で買ったお土産！！」

「ふーん…このハリセンが？」

「違うからね！？私の『扇子』だから！！…で、何か用なの？」

「…思ってた通り、ハリセンじゃなかった」

「…最悪だ！？分かっててやったの！？」

「ハハハハハハ！」

「……………で、用は？」

「別に、無いけど？」

「……………」

理解不能。

そのまま兄は何をするでもなく、バイトに出かけて行った。

何がしたかったんだ。

祭り。の翌日。の朝の出来事

私の町にはそれなりに大きな祭りがある。

県外からこの祭りが目当てで来るといふ人もいるという話だ。

……まあ、売っているのは大抵がろくでもない物が入った福袋と、エアガンとか、必ず『当たらない』ゲーム釣りとか、そういう雰囲気を楽しむ祭りなんだけど。

まあ、その祭り自体はいつも通り、大して面白くもなかったので割愛。

そういつた市内で興していた、大きな祭りの翌日。

足が棒になったかと思う程、歩き疲れた私はつい寝坊しかけていた。面白くもないけど、歩き回らなければならないと思ってしまうのは何故だろうか……。

閑話休題。ここからが本題。

今日は祭りの翌日だ。だからといって学校がない、という訳ではない。

だからこそ起きなければなるまい……けど、寝ていたい。

がらり

「起きろークソムシ」

何か兄ちゃんによるいけない幻聴が聞こえたような気がする。

ここは精神の安定の為に二度寝した方が良い気がする。うん、そうしよう。

休日…じゃ無いけど、寝た方が……、

「オーイ、朽ちろーゴミムシ」

揺さぶられた。仕方無いので起きるとしよう。だけど、

「…兄ちゃん、『朽ちろ』は酷すぎるんじゃない？クソムシも」

「初めから聞こえてるじゃないか。良いから起きろ。もう7時だぞ」

「…えーい」

聞く耳持たずですか。

…揺さぶるという比較的、物理的には優しく。

『クソムシ』という精神的に、厳しい言葉。

ハッ！これは、もしか禁断の兄妹愛！？

…いや、無いわ。

自分で考えてて、無いわ。これ。

「フッフ……ないわぁ」

「遂に油虫と化したか？」

「いやいや、そこまで言っちゃったらもう暴言のレベルじゃないよね？」

油虫って…。

人に言うような言葉じゃないよね？

その他色々。と言ったら申し訳ないけど。

私はいつも学校に母親お手製のおにぎりを一つか二つ持っていき、それをいつもの昼食としている。

学友どもはそれを「お金がないから………」等と哀れな眼で見てるが、心底どうでもいいので無視する。

大抵中身はツナマヨや、その日の朝食の余り物が入っていたりするのだが、

その日はたまたま熱したウインナーにケチャップをかけたものだった。

それそのものはご飯にとっても合うし、おにぎりの具としては最高だったのだけど。

昼休み。

一個しかないおにぎりを食べていると、

私「……………ん？」

知「どうした？」

ケチャップの奥に、何か鯉節的な物が見える。

言うまでもなく『おかか』である。

私「なんでよッ!？」
知「…ハハハ」

なんでウイナーとおかかをコラボしちゃったの!？
合う訳ないでしょうがッ!!

仕方がないので、下半分は知り合いに分けてあげました。
一個しかないおにぎり。お腹が減って仕方がない。

帰ってきてから、母に真相を迫ってみた。

私「なんでこんなクリエイティブなおにぎりなの？」

母「合うかなあ、って？」

私「…………一回、味見とかした？」

母「そしたらアンタのおにぎりが無くなるじゃない」

私「ああ…………」

…それでも何か、釈然としないのは私だけか？

その他色々。Ver.2

私は『小説家になろう！』で投稿している身分であるからにして、他の作家志望…かどうかは置いておき、他の先生方が投稿している作品を読む機会は多大にある訳だ。

私が投稿している『東方project』や『真・女神転生？』の二次小説もそういう他の先生方が読んでいたりしてくれているだろう。

その中に有名な『ネギま！！』という作品がある。

その作品を私は詳しい、という訳ではないが、それなりに何度も読んだ事もある。

そして『小説を読もう』内でもネギまのアンチ作品はかなりあると思われる。というか一番多いと思う。

私は別に自らアンチだとは思わないが、まあまあ作品の内容にツッコみたい部分もある。

さて、これだけアンチが多いと逆に大好きな人も多いという話だが。

作者は何を考えてこの作品を書いたのだろうか？

何を考えてというのは、私が言いたい事をうまく表してはいないが、極端に言えばそのまんまである。

内容を事細かに覚えてもいないし漫画自体を持っている私が言えるような立場ではないのだが、

少年がドタバタしながら成長し、恋し戦い、やがて大きな物事に巻き込まれていく。漫画としては良くあるストーリーでもあるし王道

でもあり面白く出来たりもするだろう。

では何を伝えたくて描いたのだろうか？

『諦めない事』？『成長とはこういう事』？『少年が何を望んだか』

？『少年と少女達がイチャコラする』？『少年漫画風のハーレム』？

…まあ私が考えた所で答えに辿り着けるとは思わないし、小説の題材にするような知識もない。

ここは大先生の考え方にしか解けないであろう。

そしてネット等のアンチ作品は、大抵が主人公を否定、又はストーリーをぶち壊すような作品になっている。

主人公の性格を否定、またはとことん虐めてみたり、である。

こういう先生方は、何を書きたいのだろうか？

本当にその作品が嫌いならば、私であれば書きたくもないし知ろうとも思わない。

『書く』という行為だけで、既にその本（又はゲーム）を持っており事細かに調べなければならぬ。

それだけで何かしらの好意が先生方に存在している証拠になりえると思う。

とあるキャラクターだけが嫌い。

とあるシーンがとても気に食わない。

とある作品の目指す所・終着点が嫌い。

それも理由には簡単になるだろう。

ただ嫌いだからしょうがなく調べてぶち壊す。というのはどうかと思う。

私は『作品のキャラクターは生きている』という（恥ずかしい）持論の持ち主である。

そして作品を事細かに知らずに批判だけをする、というのは最も恥

すべき行為だとも思っている。（このあたりで私も厨二病確定だが）

先生方にも考えがあり、そしてそれを書いて下されば私も満足出来るし、アンチ批判の方々も多少は納得して頂けると思っただが……

まあ何にせよ、アンチを書いている先生方は、何を書きたくて書いているのだろうか？

其処らが全くもって解らないのだけれど、シャインさん？

「いやいやいきなり話がスタートしてますけど。これは俺なりの意見を言えばおkなのか？」

ええ。どうぞどうぞ。

「まあ、ぶっちゃけ自分は自分が楽しめればそれで良いと思ってる。ただ、そんな自己満足作品を世の中に出して批判されるかされないかは別。

自分もいつキャラが違う、世界がおかしい、矛盾が多いと言われてもおかしくない作品を世の中にだしているしな。

だけど、どれだけ変でもそれは自分の造り出した『世界』であることに違いはない。

ただ、世の中に出した時点で『自分だけの作品』ではなくなる。もし、そんな作品を見るのなら読む方も覚悟をして読むようにするのが礼儀かと俺は思う

（ただ、前置きに何も書かれて無かったら話しは別だがwww）まあ、最終的に言いたいことは『原作だとかなんとか考えずにその作品を楽しんで読む』

それが一番だと思う。

これがシャインなりの意見なり。参考にはなったか？（笑）」

その『自分が楽しめれば良い』の自分は作者？それとも読者？じゃあ自己満足以外の作品については？

「両方かなww

うーん……。

それに関してはどうも言えないな……。

その人がそのキャラが嫌いなら俺は『仕方ない』と思う」

『仕方無い』ねえ………。

「ま、俺の意見としてはそーゆーのはほっとくのが一番かと。

ああいうのは『相手の反応を楽しむ』ために書いているのだと考えてるからさ」

ふうん。そういう考えもあったわね。

相手の反応を見る。なら『小説家になろう!』のサイトを使うなら、それなりに感想を書いてくれる程の技術が必要になりますよね。

…となると、技術もなく反応を楽しもうと酷い作品、言い方が悪いですが、そういった作者は目に入られない程の有り様となりますよねえ。

「ま、そうだな。

要は『マナー』と『自分がどう考えるか』、かな?」

ふうむ。

まあ、結局は自分の考え方の押し付け合いになりますよね。キャラクターが完全に定着していない場合も含めても。

「だからこーゆー議論は答えが無いんだよなwww
だからこそおもしろいんだけどwww」

理論だけならどうとも言えるからねえ。

む、いつの間に私はこんなに毒舌になった？ W W

「知らんがな W W W

あんさんのキャラに影響されてんじゃない？ W W W」

こんな毒舌のキャラクターなんていましたっけ？（苦笑）

「さあ？ W W W

胸に手を当てて考えてみたら？ W W W」

ん……………。

「ハッハッハ。

『初めてマトモな会話してると思ったらこんな感じになったか…』

あ、■■■君。

『ってなんだこのぼかし方！？』」

そうね。真面目に会話というかネタをつくってたわよ。

「だなWWW

『……やれやれ』」

……あつ、わかった。『つんでれいむ』だ。
でも始めの方は全然違う喋り方になってるわよねえ……。

「『誰！？』」

ふむ……なるほど。

『分かったの！？』

その他色々。Ver.2（後書き）

落ちも結論も無い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1774v/>

私と兄とその他色々

2011年11月13日06時29分発行